

研究会報告

幾何学的構造・空間パターンと統計

昭和61年度 統計数理研究所 共同研究 (61-共会-35)

開催日: 1986年10月24日~25日

研究代表者: 小川 泰 (筑波大学物理工学系)

前年度に引き続き、表記の研究会を開催した。日本統計学会50周年国際円卓会議や、統計数理研究所創立40周年記念シンポジウム等を通じて形成された幾何学と統計学を結ぶ研究グループは、当研究所の一つの特色ともいえよう。最近組織化の進んだ「形の科学」の学際研究の中でも、重要な役割を演じている。

今回は、一つの中心テーマとして、グラフ理論を選び、その招待講義も行われた。参加者は延べ40名を越え、活潑な討論を行った。

プログラム

10月24日

- 「二次元ネットワークの幾何学; Chains, Flowers, Rings and Peanuts—A Study of Form in Triangular Networks (in Japanese)」 小川 泰・R. Collins (筑波大・物工)
- 「幾何学的グラフ理論」 根上 生也 (東工大・理)
- 「ランダムグラフと線の施設の構成法」 古山 正雄 (京都工繊大・工芸)
- 「フラクタルを用いた画像構成への応用」 横井 茂樹 (名古屋大・工)
- 「一次元セル・オートマトンによる平面模様生成」 坂元 宗和 (東大・生産研)
- 「結晶の対称性の統計的分布」 伊藤 栄明 (統数研)

10月25日

- 「Statistical Aspects of Form in the Structure of Simple Liquids (in English)」 R. Collins・小川 泰 (筑波大・物工)
- 「高次元からの写像によるアモルファスの歪みのモデル」 西森 拓 (東工大・理)
- 「上皮性多角形細胞パタンの変化—かごめパタンから市松パタンへ」 本多 久夫 (鐘紡ガン研)
- 「濾胞細胞腔の形状と核について」 有田清三郎 (川崎医大)
- 「二次元原子分子の駐車問題について」 深谷 俊夫 (化学技術研究所)
- 「一般化ポロノイ領域とその応用」 種村 正美 (統数研)
- 「二次元 Voronoi 分割の最適化問題における厳密解」 堀 素夫・大木 光晴 (東工大・理)